

平成 29 年度 二宮町ごみ減量化推進協議会 会議記録

日 時：平成 29 年 7 月 28 日(金)

午後 3 時 00 分～午後 4 時 30 分

場 所：二宮町 町民センター 2 B クラブ室

出席者：高橋委員／野原委員／浅田委員／井上委員／山田委員／西川委員／岡部委員

事務局：和田生活環境課長／二宮生活環境班長／雨宮主事

傍聴者：1 名

1. 開 会

2. あいさつ

会 長：九州では大雨による災害が発生し、流木等のごみも発生していますが、二宮町では災害もなく、何となくごみ問題は忘れがちになってしまいます。今年の広報にのみや 8 月号では、1 人 1 日当たりのごみ排出量が目標を達成していないということでしたので、知恵を出し合ってごみ減量化をさらに進めていければと思います。

3. 議題

(1) 二宮町の廃棄物処理の現状について

『二宮町の廃棄物処理の現状』について事務局より説明

【質問・意見等】

委 員：二宮町一般廃棄物処理基本計画の目標値について、資源化率が旧計画より新計画の方が低くなっているのはどうしてですか。

事務局：旧計画が策定されたのが平成 24 年 3 月でして、その時はごみ処理広域化において大磯町に厨芥類資源化施設の整備を予定していましたが、それが平成 26 年 2 月に取りやめとなった影響です。

委 員：最終処分量の目標値が平成 22 年度比で 1/3 以下とありますが、最終処分量とは何を指しているものですか。

事務局：最終処分量は、最終処分場に埋立処分する分です。平成 28 年度より可燃ごみは平塚市環境事業センターに搬入していますが、金属や焼却灰は資源化するため、最終処分量は減少すると予測しています。

委 員：平成 28 年度に事業系で収集している可燃ごみが、計画値よりも増えてしまっている要因は何ですか。

事務局：飲食店等の食品を扱う事業者が増えたことが要因だと考えています。

委 員：景気が良くなれば、事業系ごみは増えてしまいます。

会 長：事業者に対して、ごみ減量の指導はしていますか。

事務局：年間おおむね 9t 以上のごみを出す多量排出事業者に対しては、事業系一般廃棄物減量化等計画書を提出させ、指導を行っています。

委員：目標年度を平成 38 年度ではなく、もう少し近い年度にした方が良いと思うのですが。

事務局：計画では期間を 10 年間とし、概ね 5 年で見直すこととしています。また、目標達成に向けた年度毎の段階的な計画値も試算していますので、年度毎に進捗状況を確認することはできます。

(2) ごみの減量化策について

『ごみの減量化策』について事務局より説明

【質問・意見等】

委員：販売されている食品の量を高齢者向けに少量にするといったメーカーの工夫が必要だと思います。

事務局：二宮町としてメーカーに直接発信するというのは難しいですが、食品ロスについて、神奈川県は企業との話し合いの場を設けていますので、そういう場で神奈川県から企業に話してもらえないか相談してみます。

委員：3010 運動について、宴会が行われる場所に啓発チラシを張る等して、来客に周知するようにしたら良いと思います。

会長：買い物に関する啓発に「地産地消を推奨する」を追加していただきたいです。地元で作ったものであれば、大事だから残さないようになると思いますし、エネルギーの削減や地元でお金が回るようにもなります。

委員：「賞味期限、消費期限の正しい理解」は良いと思います。

委員：ごみ収集カレンダー等の目にする機会の多い配布物に、水切り等の啓発内容を書くと効果的だと思います。

事務局：紙面が限られているので、肝心な部分が小さくなる等の影響が考えられます。

会長：地区回覧でごみ減量の特集を組むというのも良いのではないかと思います。資料 2 に書かれている以外には、どのようなごみ減量化策がありますか。

事務局：水分もうひとしぼり運動として、町のイベント等の際に水切りネットを配布したり、小学生向けの環境学習等を行いました。

委員：「我が家のごみ減量作戦」と題した子どもを対象とした作文コンクールを実施してみてもどうでしょうか。子どもがやっていたら、親も一緒にごみの減量について考える機会になると思います。

委員：今年度は、食品ロスの削減を第一目標として掲げるのですか。

事務局：具体的な計画についてはこれからになりますが、食品ロスの削減に焦点を当てた啓発を行う予定です。

委員：1 人 1 日当たりのごみ排出量の目標値は、大磯町や平塚市と比べて多いですか。

事務局：二宮町の方が少ないです。

委員：子どもたちの残した給食を処理する用に、各小学校に生ごみ処理機を設置してみてもはどうでしょうか。

委員：大人は子どもより食べる量が多いので、少子高齢化になると一人当たりのごみ量が増えてしまうと思います。

委員：汚れた容器包装プラスチックは、可燃ごみに出すことになっていますが、どの程度の汚れたとダメなのでしょう。判断に迷う場合等は可燃ごみに入れてしまうことがあるので、そこがはっきりすれば、可燃ごみ量を減らせるのではないのでしょうか。

事務局：食品が付着している物や臭いがきつい物は、リサイクルに向きません。ある程度洗って、付着物がなく、よく嗅がないと臭わない程度であれば、容器包装プラスチックに出していただいて大丈夫です。今年の6月に容器包装プラスチックの展開検査をしたところ、適合したのは8割くらいでした。袋の中に食べ残しや汚れた物が混在するとその周辺の物も汚れてしまっていました。

会長：小学校で社会科の副読本にごみ等の環境問題を載せていたと思いますが、今も載せていますか。

事務局：現在も掲載しています。

委員：キエーロは、二宮町建設工業会で作るという方向でいると思います。消滅型ですので処理に困らないため、普及できたら良いと思います。

事務局：キエーロは、過去に2台補助実績があります。普及されれば、ごみの減量化が進むと思います。

委員：プランターを使ったキエーロと同じような生ごみ処理方法は、効果的でした。また、キエーロでは大きすぎる場合は、20ℓのペットボトルやバケツ型コンポストを利用した生ごみ処理の方法もありますので、場所を取らずに処理できます。

委員：コンポストを使う場合でも、防虫剤を使用すれば虫は湧きませんでした。

(3) その他について

【質問・意見等】

委員：今年の広報にのみや4月号に記載してあるペットボトルの出し方についてですが、ポリ塩化ビニルの標記が「PVC」ではなく「V」なのはどうしてでしょうか。

事務局：確認します。

4. 閉 会